

授業科目	比較文化と国際理解				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	TO10412J		
開講年次	2	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP4-1			
担当教員	森 敦嗣							
授業概要	<p>現在、世界の多くの地域では、政治、経済、社会、文化いずれの領域においても、人、もの、金、情報が国境を越えて自由に行き交うのが当たり前の世の中となっている。そうした状況をグローバル化という言葉で表しているのは皆さんもよくご存じだろう。それは日本も例外ではない。現在の日本社会は日本人だけでなく他の国々の人々が当然のように共に暮らすのが当たり前の社会、いわゆる多文化社会になりつつある。こうした社会に生きる私たちにとって、文化的背景の異なる人々と接触し、交流することは珍しい出来事ではなくなってきた。</p> <p>しかし、その一方でグローバル化や多文化社会には問題が多々あり、必ずしも理想的な社会とは言い難いのも事実である。異なる文化があるところには摩擦や誤解が避けられず、自分とは違うものへの憎しみは争いを生む。地域によっては紛争やテロへとつながっているところもある。このような現実において人々に求められているのは、自分と異なる価値観や文化を持つ人々への寛容と理解だといわれている。だがそれだけでなく、そもそもなぜ異文化間で対立や争いが起こるのか。その根本的な要因を知ることも現代の私たちの課題といえるだろう。</p> <p>本講義ではこうした課題を踏まえ、文化の特徴と性質、異文化間の関係、異文化コミュニケーション、そしてグローバル化の現状と問題点といった項目に焦点をあてながら授業を進めていく。授業内容として講師の解説に加え、アクティブラーニング形式の確証チェック(ディスカッション)を適宜行い、学生にも自分の意見を発言してもらおう。</p> <p>また異文化コミュニケーションに関連した映像もレポート課題の題材として視聴する。学生の皆さんにはこれらの授業内容を通して自分たちと価値観の異なる人々との関係のあり方について改めて考えてもらいたい。毎回の授業ではパワーポイントを使用する。小テストは適宜実施する。レポートに関しては講義に関連した映像内容を元に提出してもらおう。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1.異文化理解についての基本的な知識と用語を理解し説明できる。</p> <p>2.異文化への理解を深め、異文化関係で議論される各々の問題について自分の意見・考えを論理的に述べるができる。</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	70	15	15	0	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)	50	15	10				75	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)	20	0	5				25	
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								

理想的レベル		標準的なレベル		
異文化への理解を深め、多文化社会やグローバル化の現状と問題点について自分なりの意見を持ち、他の人に論理的に説明できる。		全体の授業を通し異文化理解についての基礎的な知識と用語を理解し説明できる。		
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション(森 敦嗣) ・授業の概要と評価方法について、授業で使用するテキストについての紹介と解説	講義	講義内容の確認	30
2	異文化理解の意義と文化について①(森 敦嗣) ・文化の定義、文化の構造、文化モデル、具体的事例に基づいた確認チェック(ディスカッション)の実施	講義	復習:該当部分の復習	60
3	異文化理解の意義と文化について②(森 敦嗣) ・文化の特徴、人間の行動を規定する個人的側面と普遍的側面の違い、確認チェック(ディスカッション)の実施	講義	復習:該当部分の復習	60
4	自己とアイデンティティ(森 敦嗣) ・自己概念、社会的・文化的アイデンティティの特徴、確認チェック(ディスカッション)の実施	講義	復習:該当部分の復習	60
5	世界の価値観(森 敦嗣) ・個人主義 VS 集団主義、性善説 VS 性悪説、高文脈文化 VS 低文脈文化、確認チェック(ディスカッション)の実施	講義	復習:該当部分の復習	60
6	差別を考える(森 敦嗣) ・差別の種類、差別が生まれる背景、日本における男女差別の問題について、小テスト①(※変更あり)	講義、小テスト①	復習:該当部分の復習	60
7	映像から差別を理解する①(森 敦嗣) ・映画『グリーン・ブック』から人種差別の歴史を理解する(前半)、60年代のアメリカの人種差別について解説	講義 & 映像	復習:該当部分の復習	60
8	映像から差別を理解する②(森 敦嗣) ・映画『グリーン・ブック』から人種差別の歴史を理解する(後半)、レポート提出①	講義 & 映像	映像についてのレポート①	60
9	異文化適応と言語コミュニケーション(森 敦嗣) ・適応曲線について、言語コミュニケーションの意味と用法、確認チェック(ディスカッション)の実施	講義	復習:該当部分の復習	60
10	非言語コミュニケーション(森 敦嗣) ・非言語コミュニケーションの性質と種類、確認チェック(ディスカッション)の実施	講義	復習:該当部分の復習	60
11	映像から比較文化を学ぶ①(森 敦嗣) ・異文化コミュニケーションを描いた映画から言語の違いによる異なる文化を持つ人間関係の葛藤と衝突を読み取る	講義 & 映像	復習:該当部分の復習	60
12	映像から比較文化を学ぶ②(森 敦嗣) ・異文化コミュニケーションを描いた映画から異国における適応の段階を読み取る。レポート提出②	講義 & 映像	映像についてのレポート② 予習:13講に向けて『多文化・多様性理解ハンドブック』の該当部分の章を読んでおく	100
13	グローバル化とアイデンティティ(森 敦嗣) ・『多文化・多様性ハンドブック』から日本の学校制度、徒弟制度の意義を考える、小テスト②(※変更あり)	講義、小テスト②	復習:該当部分の復習	60

14	法制度からみる比較文化(森 敦嗣) ・死刑制度のある国(日本)と死刑制度のない国(欧州)の比較、刑罰に対するそれぞれの文化圏の考え方	講義	復習:該当部分の復習	60
15	全体のまとめ(森 敦嗣) ・本講義全体の総括、試験対策について	講義	復習:これまで配布した授業レジュメ、使用したテキストをすべて見直しておくこと	100
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	予備的な知識は特に必要としないが、テレビやインターネットで政治・社会関連のニュースを見ておくことが望ましい。			
テキスト	松永典子編著『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック 改訂版』(金木犀舎、2020年)※授業の合間に関連するページを読む。メインは13講の授業。 それ以外の授業についてはレジュメとパワーポイントを使って行なう。授業内容によっては映像も使用する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション——多文化共生と平和構築に向けて——』(有斐閣選書、2013年) 施光恒『英語化は愚民化——日本の国力が地に落ちる——』(集英社、2015年) 平林信隆『多文化理解と異文化コミュニケーション——多国籍学生チームと共に学んだ理論と実践——』(創成社、2019年)			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	受講者には異文化理解に自ら興味を持ってもらうため、授業では学生参加のアクティブラーニング形式の確証チェック(ディスカッション)を授業の合間に行う。またTVのニュースや新聞にも目を通し、政治や社会と言った分野で今どんなことが話題になっているのか常に注意しておいてほしい。 (注意事項) ・レポート、課題等の提出の締め切りは厳守。「正当な理由のない」期限を過ぎての提出は欠席となる。			

達成度評価に関するコメント	試験(70%)及び小テスト(15%)、レポート(15%)で評価する。各々の内容については、授業の中で指示する。 レポート含めた記述課題は、自分の主張が明確であること、その主張をする理由が理論的であり(できれば)複数あること、さらに文体の統一を重視する。
---------------	---